

6-10			
主題	ショートユニットケアにおける職員の不安解消とご利用者様サービスの向上		
副題	ショートユニット担当以外の職員がショートユニットに携わる際の工夫		
ショーステイ		ユニットケア	研究期間 6ヶ月

法人名	社会福祉法人 東京玉葉会		
事業所名	特別養護老人ホーム 第二青陽園		
発表者： 夏井 俊男		アドバイザー：伊藤 一博 興水 弥生	
共同研究者：藤巻 香織 市川 沙織			

電 話	042-654-1301	FAX	042-654-8828
-----	--------------	-----	--------------

今回発表の事業所やサービスの紹介	東京都八王子市の「社会福祉法人東京玉葉会 特別養護老人ホーム第二青陽園」は、今年の6月に2周年を迎えた新しい施設です。自然豊かでゆったりとした環境でユニットケアを実施してします（入所 90 名・ショート 10 名）。ご利用者一人一人を尊重し、ご家族の皆様とも連携を取り、個々に合ったサービスを提供することに日々努めています。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》 ＊研究前の状況 ショートユニットは長期ユニットと隣接しており、各々のユニットでケアを提供しているが職員配置は以下の状況である。 【状況1】夜間帯のみ2ユニットで職員1名の配置のため、長期ユニット職員がショートユニットに携わる。 【状況2】夜間帯の1.5時間、職員の休憩ため、休憩要員がショートユニットに携わる。 ＊課題 夜間帯のみショートユニットに携わる職員（以下、担当外の職員）から課題があがっていた。 【課題1】ご利用者様の情報は申し送りと書面上の情報のみであり、顔や様子がわからず、不安である。 【課題2】ショートご利用登録人数は80人以上となる。情報が把握しきれない。情報の共有が難しい。
--

《2. 研究の目的ならびに仮説》 ＊研究の目的 ①担当外の職員の不安を軽減するため。 ②多い登録数のご利用者様の情報を共有化するため。 ＊仮説 ①書面上以外の顔や様子などの生の情報を得ることは、職員の不安軽減やケアの質を高めることにつながるのではないかな。 ②個人情報ファイルには基本情報、身体、医療、ケアなどの情報が綴じられており、夜間帯に必要な情報の参照が難しい。夜間帯のケアに関わる情報を当日、ご利用になっている方をまとめて一覧にできれば、共有しやすいのではないかな。
--

《3. 具体的な取り組みの内容》

（職員への取り組み）

- ①職員に対してショートユニットの専門性についての勉強会を実施する。
- ②担当外職員も日中ケアにはいる時間をつくる。
- ③ショート・長期ユニットの会議にそれぞれのユニットリーダーが参加する。
- ④ショートと長期ユニットの交流をつくる。毎月2回実施する。

（環境への取り組み）

- ⑤個人情報ファイルに以下の情報を追加する。
 - ・顔写真
 - ・24H 聞取りシート
 - ・夜間帯提供サービス目安表
- ⑥環境改善
 - ・雑誌・新聞コーナーを両ユニット間につくる。
 - ・両ユニット間の扉を開放する時間をつくる。

《4. 取り組みの結果》

- ①職員からサービス提供時の不安の声が5割減少した。

（評価方法：職員からの聞取り）

- ②長期職員のケア提供時の事故が2割減少した。

（評価方法：事故件数集計）

- ③長期職員の記録に個別ケアについての内容が2割増加した。

（評価方法：記録件数集計）

- ④個別ファイル内の個別ケアに関わる情報が2割増加した。

（評価方法：個別ファイル内のケア情報に関わる書類のページ数の集計）

＊評価期間

開設から6カ月と取り組み後6カ月

《5. 考察、まとめ》

研究の発端は「職員の不安解消」ではあったが、取り組みのなかで職員のご利用者様に対する行動意識に変化がみられた。その結果として「ご利用者様から安心できる」との声をいただいた。「ご利用者様本位」を中軸に取り組めたことが最大の成果であると職員一同感じている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

・「また利用したい」と言わせるショートステイ相談援助・運営管理 2015/03

口村 淳著 日総研

・活力ある「ショートステイ」マネジメントへのノウハウ 2010/08

ショートステイ運営研究会編 中央法規

・あの介護施設にはなぜ人が集まるのかサービスを感じに変える18の物語 2013/6/11

糟谷 和弘著 PHP 研究所

《8. 提案と発信》

取り組みとして職員配置と勤務時間などの大きな変更をせずに、成果が残せました。職員が現況を変えられないと嘆かず、「今いる場所と人」で改善できることをみつける機会となりました。

ユニット型特養を開設して間もなく、まだまだ発展途上ではありますが、質の高いケアを目指して邁進して参ります。